



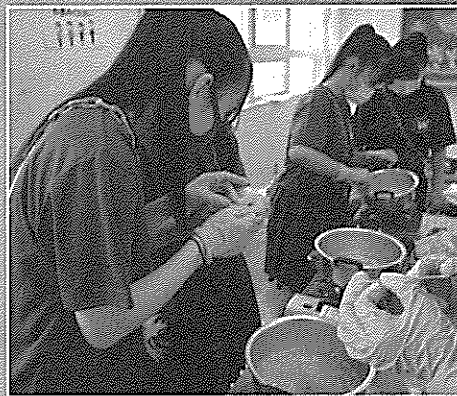
如意ヶ丘

第28号

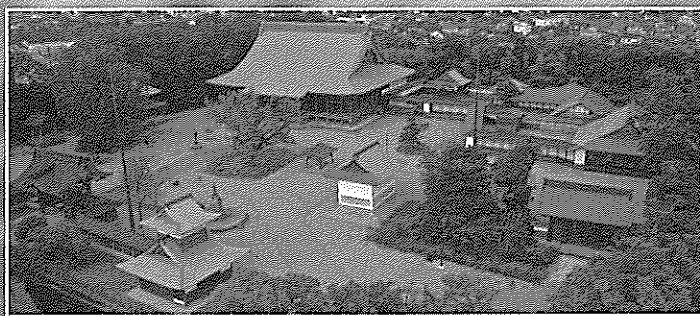
《発行》令和5年1月31日



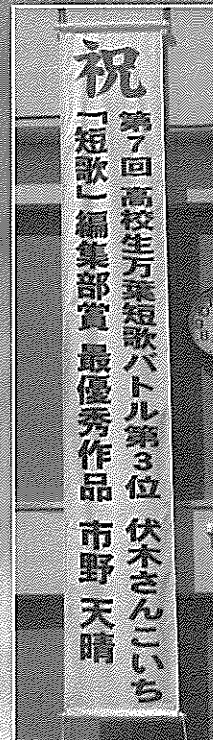
3学年国内研修旅行 (R4.7)



文化祭 模擬店 (R4.9)

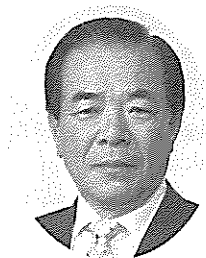


国宝 勝興寺 上空写真



第7回 高校生万葉短歌バトル
市野天晴

ごあいさつ



会長

山崎 泰邦

厳冬の候、会員の皆様にはご健勝で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より、如意ヶ丘同窓会に多大なご支援を賜り厚く感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が治まるどころか、再び猛威を振るい、前年に引き続き、ほぼ全ての活動が停止しました。学校においては、大事な行事である卒業式、入学式も大幅な制限が加わり、3年連続で行事は縮小や制限の中での実施となりました。また本校の特徴でもある、海外語学研修も出入国

に制限があり、実施できませんでした。従って国際交流はインターネットを利用したりリモート研修に留まったようで、在校生の皆さんは、現地での交流ができず、残念だったと思います。

同窓会は4月に昨年同様ゴルフコンペを、表彰式を行わない等、コロナ対策を実施して開催しました。制限が多くあった中で38名の参加を頂き誠にありがとうございました。開催できた行事は唯一ゴルフ大会だけでした。総会も関東、関西両支部

の総会も開催できませんでした。

今年は、コロナ禍の4年目になります。コロナ感染症を克服するというより対策が進化し、平穏な日常が取り戻せるのではと期待しております。従いまして、令和5年度の総会は、開催する方向で準備しています。会員の皆様の参加をお待ちしています。

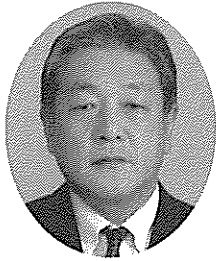
地元伏木では、令和4年12月に国の重要文化財「勝興寺」の本堂、並びに大広間・式台が正式に国宝となりました。連日、予想以上の入場者が訪れています。一過性ではなく継続して多くの人々が来場していただけるよう、念願しています。

一方、如意ヶ丘同窓会では、早々に決定頂きました創校100周年記念式典・祝賀会に向け、今年は具体的な準備委員会の組閣を考えています。できれば総会の場にお諮りし、本格稼働できればと思います。

伝統と歴史のある如意ヶ丘同窓会の更なる発展と母校の繁栄に、微力ではありますが引き続き努力してゆく所存であります。何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。

向寒の候、会員の皆様には御身ご自愛のほどご祈念申し上げます。ご挨拶と致します。

『新しい時代に求められること』



校長

亀井 隆之

本校は、来る令和9年10月8日に100歳の誕生日を迎えます。次年度より記念事業に向け、具体的な準備を進めることとなります。如意ヶ丘同窓会の皆様の温かいご協力ご支援をお願い申し上げます。

学習指導要領が約十年ぶりに改訂され、今年度より高校でもスタートしました。現代社会は、グローバル化やAI(人工知能)などの技術革新が急速に進み、未来予想図が描きにくい時代となり、生徒らには自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、判断する力が求められています。このような生徒らを取り巻く環境の変化において、今回の改訂ではこれまでの知識及び技能に加え、思考力・判断力・表現力、そして学びに向かう力の育成が重要な柱の一つとなります。その資質・能力を育むためには、「主体的で対話的な深い学び」の視点からの授業改善が求められています。

また、GIGAスクール構想として生徒一人一台タブレット端末の配置、教職員の働き方改革など新たな動きも加速しています。これまでの実践とICT(情報通信技術)を最適に組み合わせながら、教育の質の向上につなげていくことが重要な課題です。期

待される効果を得るためには、その前提として先生方には、授業で「分かった」「おもしろい」と生徒らが実感できるような学習意欲の高揚を重視した授業づくりに、これまで以上に取り組んでいただくことが重要だと考えています。

伏木には風光優美な雨晴海岸、国宝勝興寺、万葉集ゆかりの地など数々の観光・歴史・文化的な財産があり、どこにも勝るとも劣らないすばらしさがあります。住民の皆さんに支えられながら、地域に貢献する学校として進化していくべきだと考えています。加えて教育活動の成果や地域の魅力を、どんどん世界中に発信していくことも大事だと思っています。伏木にある高校だからこそ、できる教育がもっとあるように感じています。

未だ新型コロナウイルスの感染収束や国際情勢の安定が見通せない中、中韓露米の友好校との交流、少人数による話し合いやグループでの教え合いなどの教育活動は制約を受けざるを得ない状況は続いています。県内唯一、国際交流科の特色を活かすべく、一日も早く生徒らの経験を重視した安全で活発な学校生活に戻すことを願うばかりです。

おわりになりますが、卒業生の皆様の益々のご健勝とご多幸、今後とも変わらぬご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

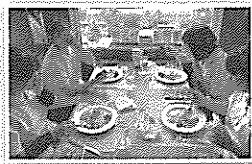


3学年国内研修旅行

海外語学研修に代わる国内研修として、3学年は現在学んでいる中国語、韓国語、ロシア語の3つのコースに分かれ、それぞれの言語に関係する国内の施設を訪問し、生活様式・文化・歴史への理解を深め、国際的な視野を広げることができました。

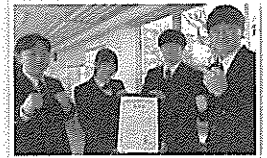
《国内研修旅行に参加した生徒の感想》

- ・中国語コース：南京中華街で中華料理を食べました。中華街ということもあり、中国の雰囲気を肌で感じる事ができました。夜には、台湾についてのお話や、実際に大学の先生の授業を受け、中身の濃い経験をする事ができました。
- ・韓国語コース：今まで韓国について学んできたのですが、遊びや服などの文化については詳しいことをあまり知らなかったもので、この研修旅行を通して学ぶことができました。「チマ・チョゴリ」を着たり伝統的なゲームで遊んだりするなど、初めての様々な体験もできよい思い出になりました。
- ・ロシア語コース：この国内研修旅行に参加して今まで体験したことのないことができとても勉強になりました。国内でもロシアについて触れることが多くありますが、いつか本当にロシアへ行ってみたいと思いました。この研修旅行で学んだことを将来に少しでも活かしていきたいと思いました。



第7回高校生万葉短歌バトル初出場 全国3位

高校生の短歌日本一を決定する「第7回高校生万葉短歌バトルin高岡」が、開催されました。全国から予選を通過した8チームが、本戦にて、1チーム3名のトーナメント戦で戦いました。コロナ禍のためオンライン開催となりましたが、熱い戦いが繰り広げられました。本校生徒も「伏木さんこいち」というチーム名のもと、万葉衣装を身にまとい、大健闘しました。



- ・テーマは「等身大の青春短歌」。高校生活の何気ない出来事の中に題材を見つけて短歌を作った。二回戦で惜しくも負けたが、敗北を経て、短歌の奥深さを知ると同時に共に闘った仲間の有り難さを実感した。(33H梅澤 遼多)
- ・ゴールデンウィークから何度も集まって短歌作りの練習をした。決まったりリズムで短歌を作るのは難しく何度も苦戦したが、それぞれ個性豊かな作歌ができた。高校時代最後の夏に良い思い出ができ、嬉しかった。(32H片山 萌花)
- ・みんなで集まり意見を出し合っ、短歌を作ったり批評し合ったりと部活動並みに活動したことは、とても良い経験になった。(33H京谷 響)

個人賞 雑誌「短歌」最優秀賞受賞作品

- ◎靴紐を念じて結びタータンへ ゴールラインに高き空見ゆ
- ・陸上競技の大会の光景を詠んだ。足下から空へという視点の移動で、記録も向上していくことを表す。チーム全員で切磋琢磨して獲った三位は思い出に残り、人生での大きな経験値を得ることができた。(32H市野 天晴)

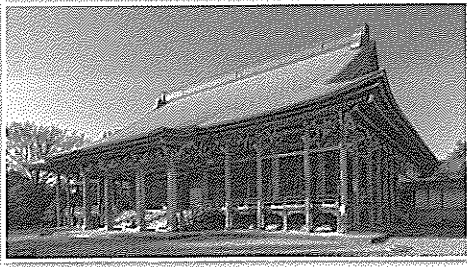
| | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|--------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------------------|
| 三北 回 卒 高代 山産商會 山下和夫 | 八北 回 卒 高所 松長一雄 | 九北 回 卒 高取 布野彰一 | 十伏 回 卒 高代 作道宏 | 十伏 回 卒 高取 上野宏芳 | 十伏 回 卒 高代 中山勝儀 | 十伏 回 卒 高代 救亨 | 十伏 回 卒 高代 山口正志 | 二十 回 卒 高代 増井修 | 二十 回 卒 高代 山崎泰邦 | 二十 回 卒 高代 阿尾隆司 | 二十 回 卒 高代 柳沢昌文 | 二十 回 卒 高代 小泉哲二 | 二十 回 卒 高代 井上動物病院 井上人士也 |
|------------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|--------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------------------|

勝興寺の国宝建造物と二人の住職

公益財団法人 勝興寺文化財保存・活用事業団
専務理事(学芸員) 高田 克宏(伏高27回)

伏木古国府の勝興寺「本堂」と「大広間及び式台」の2棟が、令和4年12月12日に国宝に指定された。

勝興寺は浄土真宗本願寺派の寺院で、文明3年(1471)に蓮如上人が南砺市福光に開いた土山御坊を起源とする古刹である。戦国期に一向一揆の中核となって同市高窪(高木場)、小矢部市末友(安養寺)へと移転を繰り返した後、天正12年(1584)に越中国府があったとされる現在地に寺基を構えて今日に至っている。



翌天正13年には、羽柴秀吉及び前田利勝(後の利長)が禁制を発して勝興寺の既得権が安堵(保証)され、それを機に勝興寺は一向一揆を主導した戦国期の浄土真宗寺院から近代的な寺院へと変貌を遂げている。

正保3年(1646)、本願寺12世准如の6男「良昌(勝興寺9代)」が入寺したことを受け、加賀前田家3代当主の利常は125石を加増し、勝興寺は200石の寺領を有するようになる。また慶安2年(1649)には利常が自身の養女を良昌に嫁がせ、さらに加賀藩領内における勝興寺の地位を別格扱いとして支援するなど、勝興寺と加賀前田家との関係が深化していった。

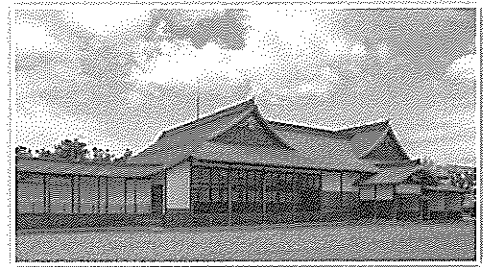
この時期、加賀藩が主導する寺院の建設活動がさかんに行われており、良昌の婚姻を機に建立された国宝大広間(承応2年;1653)と並行して、瑞龍寺においては国宝法堂(明暦元年;1655)及び国宝仏殿(万治2年;1659)が建立されている。

その後しばらくは加賀藩が積極的に寺社の建設に関わる

ことはなかったが、宝暦6年(1756)の「法暢(勝興寺13代)」の入寺が転機となる。法暢は加賀前田家6代当主前田吉徳の10男で、幼くして勝興寺の住職となったが前田家の直系が相次いで亡くなったため、還俗して前田家11代当主となった人物である。法暢は新しい本堂の建設に向けて本願寺大工の水口伊豆に設計を依頼して作事所を開設していたが、還俗して金沢に帰る際、次の住職の法薫に本堂の完成を託し、自身は藩主になった後、建設に必要な資材や資金を勝興寺に対して援助した。

援助したのは加賀藩だけではない。本願寺17世法如(法薫の父)が越中の全僧侶と門徒に宛てて本堂再建の協力依頼の文書(勸募消息)を発し、それに応えた門徒が盛んに寄進したことも相まって現在の本堂が建立され、それが今日まで受け継がれ国宝となったのである。

このように、勝興寺9代良昌の時代に加賀藩との強い結びつきによって寺の石高の倍増、寺格の向上、国宝の大広間の建設などがあった。また13代法暢の時代には加賀藩のみならず西本願寺や越中門徒との関係を昇華させたことで、大型かつ上質で装飾豊かな国宝の本堂が建立されるに至ったのである。



これらのことを勘案すれば、私見ではあるが、この良昌と法暢の二人の住職は「勝興寺中興の祖」そして「国宝の生みの親」と言っても過言ではないであろう。

令和4年度 如意ヶ丘同窓会顧問・役員

| 役職 | 卒業回数 | 氏名 | 役職 | 卒業回数 | 氏名 | 役職 | 卒業回数 | 氏名 |
|-----------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|
| 顧問 | 商業16回 | 大黒 幸雄 | 副会長 | 伏高28回 | 谷内 浩仁 | 副会長 | 伏高43回 | 城光 茂 |
| ◇ | 北高3回 | 山下 和夫 | ◇ | 伏高30回 | 炭谷 強 | ◇ | 伏高44回 | 杉本 和文 |
| ◇ | 伏高16回 | 牧 亨 | ◇ | 伏高31回 | 林 延幸 | ◇ | 伏高44回 | 増岡 寛之 |
| ◇ | 伏高18回 | 山口 正志 | ◇ | 伏高31回 | 松嶋 浩二 | ◇ | 伏高44回 | 山岡 弘之 |
| ◇ | 伏高38回 | 石須 大雄 | ◇ | 伏高37回 | 条谷 正利 | ◇ | 伏高50回 | 加治 幸大 |
| ◇(関東総務会長) | 北高6回 | 酒井 敬司 | ◇ | 伏高39回 | 戸澤 秀行 | ◇ | 伏高50回 | 川端 秀和 |
| ◇(関西支部長) | 伏高12回 | 杉林 清 | ◇ | 伏高39回 | 金田 健一 | ◇ | 伏高51回 | 奥原 理 |
| ◇(学校長) | | 亀井 隆之 | ◇ | 伏高40回 | 宮越 一郎 | 監査 | 伏高22回 | 向井 辰郎 |
| 会長 | 伏高23回 | 山崎 泰邦 | ◇ | 伏高40回 | 山本 政則 | ◇ | 伏高26回 | 澤武 博 |
| 副会長 | 伏高22回 | 増井 修 | ◇ | 伏高42回 | 山 鉄也 | | | |
| ◇ | 伏高28回 | 上田 耕一 | ◇ | 伏高43回 | 山本 健一 | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|------------------------|------------------------|---------------------------|------------------------|--------------------------------------|------------------------|---------------------------------|-------------------------|----------------------|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------|--------------------------------------|----------------------|---------------------------------|------------------------|
| 二七回卒 二七回卒 松長 聡 | 二七回卒 二七回卒 島田博司 | 三一回卒 三一回卒 松嶋浩二 | 三十四回卒 三十四回卒 数田昭久 | 三十七回卒 三十七回卒 条谷正利 | 三十七回卒 三十七回卒 スミエ工芸企画 | 三十九回卒 三十九回卒 勝山英和 | 三十九回卒 三十九回卒 三和運輸(株) 代表取締役社長 | 三十九回卒 三十九回卒 戸澤秀行 | 三十九回卒 三十九回卒 日光商事 代表取締役 | 三十九回卒 三十九回卒 前田伊和男 | 四十回卒 四十回卒 宮越一郎 | 四十回卒 四十回卒 宮越工芸(株) 代表取締役社長 | 四十回卒 四十回卒 ヤマ自動車(株) 代表取締役 | 四十回卒 四十回卒 山守盛久 | 四十回卒 四十回卒 山岡石材工業(株) 代表取締役社長 | 四十回卒 四十回卒 山岡弘之 | 五十二回卒 五十二回卒 奥原電氣 代表取締役 | 五十二回卒 五十二回卒 奥原 理 |
|----------------------|----------------------|----------------------|------------------------|------------------------|---------------------------|------------------------|--------------------------------------|------------------------|---------------------------------|-------------------------|----------------------|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------|--------------------------------------|----------------------|---------------------------------|------------------------|

~令和4年度 進路状況~

進路指導主事 細口 真弓

コロナ禍のもとではありますが、伏木高校生は、それぞれが目標に向かって充実した毎日を過ごしていたと思います。昨年末に行われたサッカーワールドカップ2022では、森保監督率いるSamurai Japanが、私たちに最後まで諦めず挑戦することの素晴らしさを教えてくれました。彼らの活躍は、生徒たちへ高校生活全般や受験に対する意気込みに大きな勇気と希望を与えてくれたように思います。(就職について)

県内では、高校生の就職希望者が減少傾向にあり、本校もここ数年、同様の傾向をたどっています。一方、企業側では高校生対象の需要は根強いものがあり、求人数的には十分と言えますが、今後は個人が仕事に求めるイメージと企業とのマッチングをしっかりと進めていくことが肝心だと思っています。(進学について)

コロナ禍の影響で進学先は北陸を中心とする強い傾向がみられましたが、今年度は、関西・関東方面への希望者数も徐々に増加しつつあります。難関校へのチャレンジ志向と推薦・総合型との二極化が顕著になっています。

今年度も生徒の進路実現に向かい、教職員一丸となりまして生徒個々の能力を最大限に引き出し、最善の進路を選択できるよう、努力を重ねてまいりました。

同窓会の皆様には、本校生徒の進路実現のため一層のお力添えを宜しくお願いいたします。

令和4年度 大学等進路状況

令和4年12月末現在

| 進路先 | 人数 | 学校名・企業名等 |
|-------|----|---|
| 国公立大学 | 9 | 富山、富山県立、金沢、新潟県立、都留文科、長野、静岡文化芸術 |
| 私立大学 | 20 | 富山国際、金沢工業、北陸、金沢星稜、金沢学院、立命館、名古屋商科、京都先端科学、岐阜保健 |
| 短期大学 | 9 | 富山短期、富山福祉短期、金沢星稜大学女子短期 |
| 専門学校 | 29 | 富山情報ビジネス、富山理容美容、富山県高岡看護、白井美容、富山クリエイティブ、国際ペット、専門学校金沢美専、専門学校デジタルアーツ東京、大原医療・スポーツ、富山医療福祉、富山県技術専門学校、新潟日建工科、東京総合美容、金沢リハビリテーションアカデミー、国際医療福祉専門学校七尾校、日本工学院、国際トータルファッション、東放学園音響 |
| 就職 | 10 | 塩谷建設株式会社、BBSジャパン株式会社、JFEミネラル株式会社クロム&リサイクル事業部、西日本旅客鉄道株式会社、アイシン軽金属株式会社、社会福祉法人射水万葉会、庄川温泉観光ホテル株式会社、富山県警察 |

活動報告

Fushiki High School

◆◆◆ 令和4年度部活動等の記録 ◆◆◆

(令和4年3月~12月)

(サッカー部)

富山県 U-18 フットサル交流大会 2022 準優勝

(陸上部)

第71回高岡市長杯争奪陸上競技大会
高校・一般男子100mの部 第2位 市野 天晴 (32H)

(琴部)

第33回富山県高等学校日本音楽演奏会 日本音楽部門 優秀賞

(その他)

第7回高校生万葉短歌バトル
団体3位 伏木さんこいち 市野 天晴 (32H) 片口 萌花 (32H)
梅澤 遼多 (33H) 京谷 響 (33H)
個人 角川「短歌」編集部賞(最優秀作品) 市野 天晴 (32H)

第42回高岡万葉まつり全国万葉短歌大会

ジュニアの部 優秀賞 仲 陽紅 (22H)
文苑堂54字文学賞 未来の作家部門特別賞 六田 結愛 (11H)
B+アイデア賞 松下晋多朗 (11H)
B+ホラー賞 坂東 俊希 (12H)

第23回富山県高校生ホームプロジェクトコンクール

優良賞 坂東 俊希 (12H)

◆令和4年度英語検定合格者数 (令和4年12月現在)

| 級 | 1年 | 2年 | 3年 | 合計 |
|-----|----|----|----|----|
| 2級 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 準2級 | 1 | 3 | 4 | 8 |
| 3級 | 7 | 9 | 4 | 20 |

ゴルフ大会報告

富山県高校OB対抗ゴルフ大会は開催中止

第37回 如意ヶ丘グリーン会

参加者38名

開催日 令和4年4月9日(土)

開催場所 氷見カントリークラブ

| |
|---|
| 優勝 田中 清(北高9回) 5位 小泉 哲二(伏高26回) 9位 井波 勝利(伏高12回) 13位 増井 修(伏高22回) |
| 準優勝 安藤 昌広(伏高30回) 6位 澤武 博(伏高26回) 10位 吉滝 和弘(伏高30回) 14位 柳澤 昌文(伏高25回) |
| 3位 畑 齊嗣(伏高31回) 7位 廣野 辰之(伏高23回) 11位 垣内 浩之(北高30回) 15位 笹木 務(伏高26回) |
| 4位 飯澤 隆夫(伏高12回) 8位 松嶋 浩二(伏高31回) 12位 河合 淳(伏高31回) B G 田中 清(北高9回) |

INFORMATION

①平成28年版名簿発行のお知らせ

平成28年版如意ヶ丘同窓会名簿を発行しました。希望される方は直接来校されるかサラトにお申し込みください。
価格：4,350円(送料、税込み)

②会報購読、会報広告の件

会報の購読を希望される方、および会報への広告掲載にご協力いただける方は、事務局までご一報ください。

③寄稿の件

本会報に掲載する原稿を募集いたします。学生時代の記憶に残る体験、経歴談、思い出話など皆様のご協力を頂き、より充実した紙面を目指していきたいと思っております。なお、原稿は1,000字以内でお願いします。下記のメールアドレス、または学校事務局まで送付ください。

④如意ヶ丘グリーン会参加者募集

毎年4月第2土曜日

富山県立伏木高等学校 同窓会事務局
〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮2丁目11番1号
TEL 0766-44-1514 FAX 0766-44-1707
E-mail: fushikiko@ed.pref.toyama.jp HP: http://www.fushiki-h.tym.ed.jp/

受付
窓口

編集後記

ここ数年、編集後記の挨拶に新型コロナに関しての暗い書き出しが当たり前になっておりました。今年こそは収束することを願いたいと思います。

年初から行事やイベントも再開することが多くなってきました。やはり人と人の輪はリアルで育くむものだと感じます。再開行事に参加するにつれそう思います。子供から大人、お年寄りまでが一堂に集まる場面ならなおさらです。リモート開催の会議等は一定の共通した人達のものであり、地域や学校行事となるとリモートは出来ず中止を余儀なくされてきました。例えリモートが出来たとしてもリアルのコミュニケーションには及びません。

今年は皆さんと明るい気持ちで物事に取り組める、そんな一年を過ごしたいものです。

副会長 山 鉄也(伏高42回)